

平成22年度 学校評価実施報告書

学校番号 42

学校名 千葉県立市川北高等学校

課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	①ホームページの更新を1か月に2～3回のペースで行った。統合校のホームページを作成した。 ②7月、8月に市川西高校と合同で学校説明会を実施し、1学期と2学期に中学校訪問を実施した。 ③各学期に1回ずつ開かれた学校づくり委員会を開催し、学校運営に対する意見を聴取するとともに、ミニ集会を市川西高校と合同開催した。 ④職員対象のアンケートの結果、会議について効率的な運営がなされているとの意見が多かった。	①項目により更新の頻度に差があった。また、内容の充実を求める等の要望があったので、検討するとともに、より見やすい統合校のホームページを作成する。 ②統合校においても継続し、より内容の充実を図る。 ③統合校においても継続し、より内容の充実を図る。 ④運営委員会での事前検討などによる効率的な会議運営を継続して進めていく。会議時間の短縮のためにも資料の事前配付を徹底していきたい。
学習指導	①10月に生徒による授業評価アンケートを実施した。全体的に良好な評価であった。 ②6月と10月に保護者に対する授業公開を行った。同時に参加者に対するアンケートを実施した。全体的に良好な評価であった。 ③1学期、2学期の授業公開週間中の教員相互の授業参観は、一部の教員間にとどまった。また、各教科とも各学期ごとの評価に関する話し合いは実施できているが、学校全体の授業研究については積極的な取組が出来なかった。	①教員の授業に対する評価は高かった。反面、生徒の学習状況が不十分であり、家庭学習の充実を図りたい。 ②より多くの保護者に関心をもってもらい、授業公開への参加人数を増加させる方策を検討する。 ③統合校においても年間の行事計画に2回の授業公開週間を位置づけ、各教科で授業研究を実施する環境を整える。また、参観レポートを継続し、全職員に取り組みが還元できる環境を整える。
生徒指導	①遅刻者の1学期の延べ人数は1241人で昨年度比9.1%減、2学期は2183人で昨年度比14.6%減を達成した。登下校マナーについて各学期にマナーアップキャンペーンを実施するとともに、各学期に2回ずつ登校・下校指導強化週間を設け指導を実施した。 ②6月に面談週間を設け、生徒・保護者に対する面談を実施した。 ③スクールカウンセラーを招へいしての面談事例はなかった。10月にスーパーバイザーを講師として教育相談に関する研修会を実施した。	①遅刻については、1学期、2学期ともに減少した。課題であった2学期の3学年の進路決定後の遅刻者数の顕著な増加もなかった。登下校のマナーについて近隣住民からの苦情があるなどまだ十分な状況ではない。マナー・モラルの遵守については、各ホームルームで指導の徹底を図る。 ②生徒へのアンケート結果では相談業務に対する評価は良くなってきている。個に応じたきめ細やかな相談業務を行えるような体制をさらに強化していきたい。 ③関係機関と連携し、必要に応じてカウンセラーを招へいできるような環境を整えたい。また、教育相談箱の一層の活用・周知を図る。
キャリア教育	①ガイダンスは、1学年は1回(10月)、2学年は3回(11月2回、1月)、3学年は3回(4月、6月、7月)実施した。また、就職講座を合計6回実施した。 ②職場体験は7月に看護医療関係について3名の生徒のみであり、参加者数の増加が望まれる。 ③10月に千葉商科大学の環境及び情報並びに和洋女子大学の英文学及び英会話の特別授業を実施し、本校及び市川西高校生徒105名が参加した。	①就職状況が厳しく、1学年から早期の意識付けが必要である。3年間の段階的継続的な指導が行えるような計画や1年次におけるガイダンスの充実を図る。 ②進路関係行事の着実な伝達に向けてポスターや掲示板の活用など方法を工夫するとともに、職場体験については年間行事に位置付け、全校的に取り組むよう努力する。 ③より多くの生徒が参加できるような実施形態を検討したい。
特別活動	①生徒に対するアンケートの結果、学校行事・生徒会・部活動が充実していると回答した生徒が12ポイント増加した。	①予算の制約はあるが、新統合校としての施設の充実を図るとともに、特色ある学校行事の工夫や生徒会・部活動をより多くの生徒が参加し、活気のあるものとするような取り組みを行っていく。
特色ある活動	①1学期の1年生の部活動加入率は、108.6%で目標を達成した。12月現在の加入率は、60.2%で目標値の達成ができなかった。 ②統合校のホームページを作成するとともに、統合準備室会議の決定事項等を定期的に更新した。 ③10月の高大連携事業、11月の芸術鑑賞会等の行事での交流を行うとともに、生徒会、部活動の交流が積極的に行われた。	①統合校ではより魅力ある部活動の運営方法を工夫し、加入率の向上と継続させる努力をする必要がある。 ②更新の頻度を増加させるとともに見やすいホームページの工夫をする。また、学校説明会や中学校訪問を積極的に開催して新統合校についての広報に努める。 ③高大連携事業については、統合校においても継続させるとともに、より多くの生徒が参加できるような実施形態を検討し、内容の充実を図る。

学校評価の公表について (手段・時期等)	・12月にアンケート結果をホームページに公表するとともに、PTA会報に掲載し配布した。 ・3月から、ホームページにアップし、学校評価等を公表する。
-------------------------	--

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	①今後ともHPの定期的な更新を続けるとともに、情報のメール配信の検討もして欲しい。ただし、教育サービスの向上と教育力の向上は別物であり、本質を見失わずバランス感覚をもってこなっていって欲しい。 ②③統合校でも発展的に継続して実施して欲しい。 ④企業や大学では資料のメール配信等の工夫をしている。学校においてもそのような環境が整うと良い。	①項目により更新の頻度に差があった。また、内容の充実を求める等の要望があったので、検討するとともに、中学生向け、保護者向け等、対象別のページ作成についても検討し、より見やすい統合校のホームページを作成する。 ②③統合校においても継続し、より内容の充実を図る ④会議運営の効率化だけでなく、組織の見直しや会議の精選を図っていく。
学習指導	①授業を参観しても先生方は丁寧な授業をおこなっていることがわかる。生徒による授業評価やアンケートは授業をおこなう上での重要な指標の1つであり、大いに賛成である。 ②PTAとしてもより多くの保護者が参加するよう働きかけをおこないたい。 ③先生方も忙しいとは思いますが、教えるプロとして、わかりやすい授業や学力を付ける授業の研究・研修をしていただきたい。	①教員の授業に対する評価は高かった。反面、生徒の学習状況が不十分であり、家庭学習の充実を図りたい。 ②より多くの保護者に授業公開への参加してもらえるような方策をPTAと協力し検討する。 ③統合校においても年間の行事計画に2回の授業公開週間を位置づけ、各教科で授業研究を実施する環境を整える。また、参観レポートを継続し、全職員に取り組みが還元できる環境を整える。
生徒指導	①昨年に引き続き遅刻者が減少していることは素晴らしい。学年室体制や遅刻カード等の取組を統合校でも継続して実施してもらいたい。 ②③市内の小中学校は全ての学校にカウンセラーが常駐している、高校では常駐していないのは残念である。教育相談の研修等を実施して個々の先生方のカウンセリング技術の向上を図って欲しい。	①遅刻については、1学期、2学期ともに減少した。課題であった2学期の3学年の進路決定後の遅刻者数の増加については、進路指導部を中心とした指導により改善された。登下校のマナーについては、統合に伴い生徒の登下校経路が変わるので、生徒指導部、学年を中心として、マナー・モラルの遵守や交通安全指導の徹底を図る。 ②学校の教育相談業務に対する生徒・保護者の評価は高いが、一層の個に応じたきめ細やかな相談業務を行えるような体制を整える。 ③関係機関との連携によるカウンセラー活用体制を整備する。また、教育相談箱の一層の活用・周知を図る。
キャリア教育	①ガイダンスが計画的に実施され、多くの生徒が進路希望を達成しており素晴らしい。今後は、進路先決定後の学習の在り方や生活の在り方の指導にも重点をおいていただきたい。 ②職場体験が十分に行われていないのは残念である。子供たちは実体験が乏しいので貴重な体験になると考えるので、統合校においては組織的に計画をしていって欲しい。 ③大学側とより綿密に連携を取り、より多くの生徒が参加するような工夫をしていって欲しい。また、保護者に対しても情報提供をすることも参加者の増加につながると思う。	①就職状況が厳しく、1学年から早期の意識付けが必要である。3年間の段階的継続的な指導が行えるように計画を立てる。また、保護者への情報提供を積極的に行っていく。 ②職場体験については周知が足りず、応募者が少なかった。進路関係行事の着実な伝達に向けてポスターや掲示板の活用など方法を工夫する。 ③高大連携の特別授業については、より多くの生徒が参加できるような実施形態を検討し、内容の充実を図る。
特別活動	①ミニ集会での生徒の活動発表は素晴らしかった。統合校の生徒会活動・学校行事もぜひ充実させて欲しい。また、ユネスコ・スクールとしての活動を期待している。	①予算の制約はあるが、新統合校としての施設の充実を図るとともに、特色ある学校行事の工夫や生徒会・部活動をより多くの生徒が参加し、活気のあるものとするような取り組みを行っていく。
特色ある活動	①部活動で身につく社会性、教養は非常に大切である。また、中学生も高校を選ぶ際、部活動等での成就感を重視している。部活動がより活発になるよう指導方法も含め研究して欲しい。 ②統合前よりもむしろ統合後どのような教育活動を行っているか情報発信していくことが大事である。 ③大学側と連携し、より内容が充実したものとして欲しい。	①統合校ではより魅力ある部活動の運営方法や指導方法を工夫し、加入率の向上と継続させる努力をする必要がある。 ②更新の頻度を増加させるとともに見やすいホームページの工夫をする。また、学校説明会や中学校訪問を積極的に開催して新統合校についての広報に努める。 ③高大連携事業については、統合校においても継続させるとともに、より多くの生徒が参加できるような実施形態を検討し、内容の充実を図る。